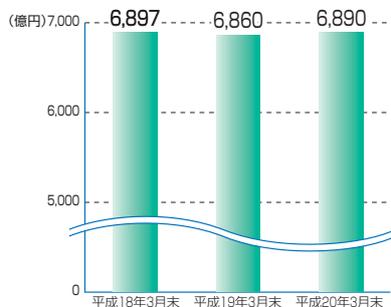


## 2008年3月期決算ハイライト

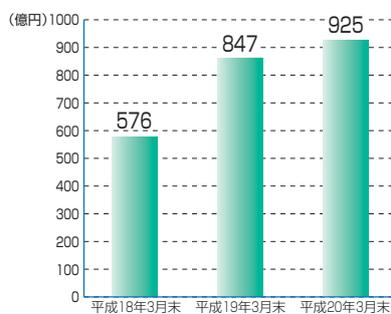
### ■ 預金残高



当行は、個人のお客さまを中心に、地域に密着した営業活動を展開しております。

毎回、ご好評をいただいております「ジャンプ定期預金」や前期より団塊の世代のお客さま向けに発売し好評を博しました「団塊世代応援定期」を中心に推進した結果、預金残高は前期比30億円増加し、6,890億円と堅調に推移いたしました。

### ■ 預り資産残高



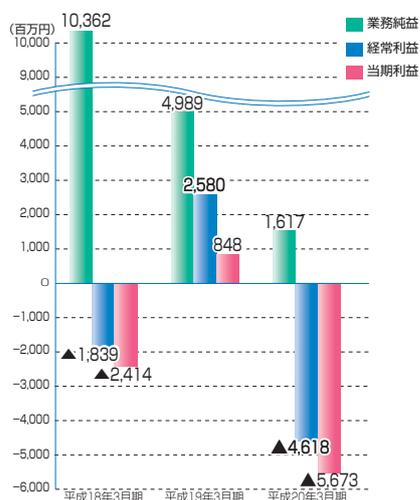
当行は、投資信託、個人年金保険等、お客さまの資産運用ニーズの高まりに対応すべく、商品ラインナップの充実及び資産運用相談窓口の設置を行ってまいりました。その結果、預り資産の残高は前期比78億円増加し、925億円となりました。今後も、お客さまのニーズに幅広く対応していけるよう、商品の充実ならびに体制整備に取り組んでまいります。

### ■ 貸出金残高



当行は、地域金融機関として、地域活性化に向け資金ニーズに積極的かつ迅速にお応えできるよう商品の充実に取り組んでまいりました。事業主の皆さまには、過度な担保に依存しない融資商品として、車両活用ローン「価持車（かもつしゃ）」を発売し、個人のお客さまには住宅ローンを中心に積極的に取り組んでまいりました。この結果、貸出金残高は前期比128億円増加し、5,303億円となりました。

### ■ 業務純益・経常利益・当期利益の推移



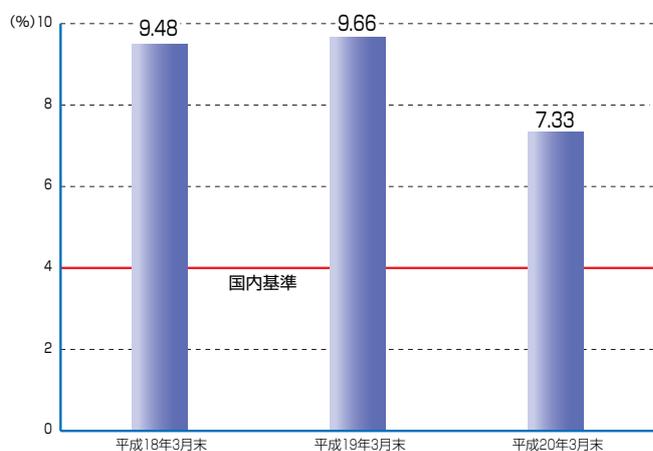
業務純益は、16億円となりました。しかしながら、有価証券の評価損について損失処理を実施したことから、経常利益は46億円の損失計上となりました。

また、当期利益については所有不動産の減損処理を4億円実施したため、56億円の損失計上となりました。

#### 用語解説

- ①業務純益 銀行の本来業務の成果を示す利益指標です。
- ②経常利益 業務純益に貸出金償却や株式の売買益などの臨時損益を加減算したものです。
- ③当期利益 経常利益に特別損益と税金を加減算したものです。

## ■ 自己資本比率（単体）



当行のように海外に支店をもたない銀行は4%が適用となります。

平成20年3月末の当行自己資本比率（単体）は、7.33%で国内基準を大幅に上回っており、当行の健全性に問題がある状況ではないものの、今後、積極的な業務展開を通じて企業価値の向上を図る上で自己資本の充実が必要であると判断し、平成20年6月に第三者割当増資を実施いたしました。

## 金融再生法に基づく開示債権額

単位：百万円

	20年3月末
破産更正債権及びこれらに準ずる債権	10,915
危険債権	13,352
要管理債権	3,136
小計(A)	27,404
正常債権	507,004
合計(B)	534,409
開示債権比率(A)／(B)	5.12%

### 用語解説

- ①破産更生債権及びこれらに準ずる債権 ▶ 破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権。
- ②危険債権 ▶ 上記の状態には至っていないが財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性が高い債権。
- ③要管理債権 ▶ 上記を除く3ヵ月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権。

## 開示債権額と総与信に占める開示債権額の比率

